

第25回アクラスZOOM寺子屋感想

生成AIも電子辞書や翻訳アプリ等と同じように、使い方を学ぶことよりも、語学の習得にどう役立てるかの議論が大切だと改めて感じました。

今回の寺子屋では、以下の3点が私にとっての大きな学びでした。

- ①私も坂本先生のように「うまくいったプロンプト」をストックしていこうと強く思いました（今まではプロンプトの成功例をそのまま放置していました）。効率的に最大限の効果を得るためだけでなく、私自身の文章力や的確に伝達する能力の向上のためにも必要だと思いました。
- ②今回は「スプレッドシートにエクスポート」の事例が出ていましたが、生成AIと他のアプリケーションとの連携が、今後業務効率を大きく向上させる鍵になりそうだと感じました。最新の情報をちゃんとアップデートしていきたいです。
- ③先生からいただいたプロンプトをGPT-4oとGeminiで、またそれぞれ異なる時間帯で試してみたのですが、先生がおっしゃった通り、確かに時間とAIの種類により多様な回答が見られました。用途によりAIを賢く使い分けられるようになりたいと思いました。

また、2つの大きな課題を見出すことができました。

①今後2-3年でAIが爆発的な進歩を遂げ、今議論されている諸々の課題もほぼAI自身が解決できる領域に達したとき、我々パイロットである教師に必要とされる能力とは何なのか、どのような力を今後身につけていくべきなのか、そもそも教師が存在する意味とは何なのかを考えるきっかけをいただきました（ZOOMの最後に感想を言う際には上手く言語化できませんでした...）。

②私はトゥレット症や吃音症を持つ当事者なのですが、学校教育（特に言語の学び）では苦勞することが多々ありました（今も教師として苦勞することがよくあります）。そこで、同じ様な「生きづらさ」「学びづらさ」「働きづらさ」を抱えている方々のサポートとしてAIが活用できないか、という私にとって新しい視点の問いが生まれました。これは今後ずっと探求していきたいテーマになりそうです。

貴重な機会と学びを与えてくださった坂本先生、心から感謝します。

具体的な使い方のガイドにとどまらず、生成される回答にフェイクが混入していることや、学生が使っていくことにどう対処するかなど、具体的な問題点について話をすることが出来て、とても有意義な催しだったと思います。

今回の催しに向けてGeminiであれこれ試してみたところ、その能力が質量ともに飛躍的に進歩していることを実感しました。うまく活用できれば教員の作業時間を大きく減らすことができそうですが、半面、フェイクや不正使用のチェックなど、新たな対応に時間が取られる可能性もあるとのこと。手放しで喜べる状況ではないようです。

ただし、技術の進歩に目を閉ざしてはいけないと思います。最新の動向をフォローしつつ、その問題点の把握と対策にも目を向けながら、そうした技術を活用していきたいと強く感じた次第です。

さかもな使い方のガイドにとどまらず、生成される回答にフェイクが混入していることや、学生が使っていくことにどう対処するかなど、具体的な問題点について話をすることが出来て、とても有意義な催しだったと思います。

今回の催しに向けてGeminiであれこれ試してみたところ、その能力が質量ともに飛躍的に進歩していることを実感しました。うまく活用できれば教員の作業時間を大きく減らすことができそうですが、半面、フェイクや不正使用のチェックなど、新たな対応に時間が取られる可能性もあるとのこと。手放しで喜べる状況ではないようです。

ただし、技術の進歩に目を閉ざしてはいけないと思います。最新の動向をフォローしつつ、その問題点の把握と対策にも目を向けながら、そうした技術を活用していきたいと強く感じた次第です。

坂本先生、嶋田先生、素晴らしい会を企画していただき、ありがとうございました。

生成AIを触ってみる段階から一歩前へ進むつもりで参加したら、既に活用されていて、さらに幅を広げるために参加された先生達が多くて舌を巻きました。さすがアラクス寺小屋だと感じました。坂本先生の教えてくださったプロンプトはもとより、生成AIへの関わり方のお話を伺ったことが何よりも学びになりました。私も何歳になっても新しい世界を楽しめる教師、学生とともに成長する教師でありたいと思います。ありがとうございました。

本日は丁寧なご指導をありがとうございました。Geminiは使ったことがありませんでしたが、文章作成などに強いこともおしえていただき、是非これから活用できたらと思います。生成AIの使用はさけては通れない時代になっていると認識はしておりますが、その危うい側面も忘れず、何のために使うのかを常に意識しておきたいと思います。脇道にそれますが、感情のないAIに適切なプロンプトを出すことは、阿吽の呼吸は通じない日本語学習者に、適切なプロンプトを提示するスキルに通じるものがあると思いました。包括的なスキルアップを目指したいと思います。

まずは、坂本先生の温かいご指導に感謝です。先生の長年の努力の賜物であるAIに出すプロンプトも惜しみなく共有してくださり、本当にありがとうございました。近年、生成AIが日本語教育に及ぼす影響も無視できなくなってきました。そこで、生成AIとどのように取り組んでいくべきか、今回の寺子屋セミナーで深く考えさせられました。AIは上手に使えば、自分の力だけではできないことをやってくれる素晴らしいツールになる反面、頼りすぎると危険である、ということは、他のインターネットの使い方にも共通していると感じました。やはり、ツールとしてどのように使っていくか、また常に自分の知識と判断を持って、AIと「共存」していくという意識が必須であると強く思いました。それでも「まずは自分がAIを使えるようにならなければならない」という坂本先生のお言葉に大きく頷き、同時にこれから長い道のりを行かねば、と思いました。また、若い学生たちを教える日本語教師として、「学生に寄り添う」大切さにも共鳴しました。学生たちは、私が日常的に冷蔵庫を使うように、当たり前のようにITを使っています。例にもれずインドの学生も日本語学習の仕方が明らかに変わってきています。この先、どのように日本語を教えるのか正直、五里霧中の状態ですが、まずは自分がAIを使ってみなければ先は見えないと実感。IT関連は決して得意ではありませんが、私なりに前向きに頑張りたいと思います。坂本先生、嶋田先生、素晴らしい機会を与えてくださり、ありがとうございました。

坂本先生、嶋田先生

本日は貴重な講演に参加でき大変嬉しく、楽しい時間でした。参加者の方からも質問がありましたが、現在学習者の考査について今後はレポートは無意味になるのではないかと全学科の教員が試行錯誤の手探り状態ですが、参考となる情報もいただき私自身も今後はどのように学習者を評価するか、どのような課題（活動）が学習者によいのか検討していきたいと思います。実は、今回の受講にあたり準備不足もあり当初私のPCでなかなか指示などをコピーできず演習の時間は焦ってしまいました。先生の作業が画面越しで拝見できたので安心しました。受講後、貼り付け方法を変えてみたら無事、作業ができました。先生が仰ったとおりAIを使用するにあたり教師はあくまでも授業準備のためにサポーターとしてAIを活用するといいたいのだと考えます。少なくとも現時点は、評価に用いるはいささかどうなのかと疑問を抱きます。Geminiを使う良い体験を持つ機会を作っていただきありがとうございました。

少しだけchatgptに挑戦して挫けていた私にとって、まさに坂本先生は救世主でした。プロンプトの多様性にも驚き、利用法がいくつも思い浮かびました。また、使用について嶋田先生が述べられていた「知らない意見を言えない」こともとても重要だと思いました。ただ楽をするだけじゃなくて、どうやって共存していくのかについても考えていこうと思っています。大変有意義な時間でした。ありがとうございました。

生成AIの長所と弱点、活用のカギを握るプロンプトの出し方などを、坂本先生に実践的に教えていただき貴重な2時間でした。開催していただき心よりお礼申し上げます。

教師だけでなく、学生も生成AIの活用で変化していく時代なのだと思います。良い手法やツールを積極的に取り入れつつ、指導内容や指導力向上への注力で成長し続ける教師であることが大切なのですね。ありがとうございました。

<p>AIとのうまい付き合い方、AIにきちんと助けになってもらえる方法、出てきた結果を鵜呑みにせず確認すること、AIの危うさを常に認識し考えることを放棄しないこと、それらは自分自身が身に着けたいことであり、学習者にも身に付けてほしいことだと改めて思いました。</p> <p>終わってから、自分の感想を英語で書いてGemini先生に自然な英語に直してもらいました。類似表現のニュアンスの違いなど解説や、なぜこう修正したかの補足も丁寧につけてくれて勉強になりました。後期、学生たちは日本語で、私は英語で自主練・壁打ちのように取り組んでシェアし、ポートフォリオの一部とするのもいいなど考えています。</p> <p>坂本先生や嶋田先生のように、私も学び続けながら模索していきたいです。柳瀬先生のブログも拝見しました。大変興味深い記事や動画を楽しみに読み進めていこうと思います。参加できてよかったです。ありがとうございました。</p>
<p>坂本先生、貴重な資料を惜しみなくご提供くださり、とても学びの多い会でした。翌日、さっそく教えていただいたプロンプトを使って、いろいろ試してみました。AIから提示される案が今ひとつの時は、先生がおっしゃるように少し時間を置くとまた違ったタイプのものが提示されてうまくいきました。今までChatGPTをわずかに使う程度でしたが、今後Geminiも活用していきたいと思いましたが、ZoomやCanvaにどんどん追加されるAI機能も恐れずに活用していこうと思います。ありがとうございました。</p>
<p>昨年大学でも生成AIを使用しています。学生にも使用を推奨していますが、他人の論文をもとにプロンプトオーダーで自分のものとする学生も増えました。今後、論文の形態も変わっていくのかもしれませんが、個々のリテラシーの精度も問題になります。画像も作成しているのですが、わかりにくい単語やオノマトペをプロンプトのみで作成できるのは 便利です。今回の講座もたいへん楽しい時間で、先生のお人柄が伺えます。ありがとうございました。</p>
<p>本日は有意義な時間をありがとうございました。ちょうど翻訳ソフトの翻訳文が日本語にあっているか、学習者に確認とアドバイスをもらいながらの文法のFBを行っていました。このやり方だと皆でわいわい言いながら作り上げていく雰囲気になり、これまでついてこられなかった人も参加意欲が大変良くなるのですが、数か国語での元資料を作るのに、コピペだけなのですが、ものすごく時間がかかりました。早速今日教えていただいたことで時短になり睡眠時間をより確保できます。そこで早速やってみたら、なんと中国語訳はピンインまで出してくれました。しかし、読み上げ発音はローマ字風発音なので、笑ってしまいました。また「ご依頼ありがとうございました」と大変丁寧なメッセージまでいただきました。</p> <p>約30年前、「将来は暗記の必要がない世界になるので、学習の仕方が変わる。」と聞いていましたが、もうその世界がとっくに来てしまっているのでしょうか。語学ももう自動翻訳機が普及していくのでしょうか。だとしたら、今後どういう教育、学習の在り方がふさわしいのでしょうか。この変化が実はとても楽しみな私です。さて、この度は、具体的で即役に立つ資料と講義を誠にありがとうございました。信じられないほどご親切な資料でしたし、先生の明るく輝くような笑顔に癒されました。また嶋田先生の熱いメッセージも心に響きました。そしてご一緒していただいた皆様、ありがとうございました。皆さま方からも多くを学べました。心より感謝申し上げます。</p>
<p>生成AIが出始めの頃と日々進化してある過程で、プロンプトの出し方でより便利に使えることがわかり勉強になりました。学習者に使わせないことはできないので、今後はより授業の中にどのように取り入れて行くと効果的かまた皆で話し合う機会があればと思いました。</p>
<p>今回のセミナーも開催をありがとうございました。</p> <p>無料版の生成AIでも、文章問題の作成や作文の評価などできると知ったときは、授業準備が早くできると色めき立ちました。</p> <p>しかし、ほかの参加の方から、「学生に問題の作成方法を教えて自主自習させられる」との意見が出た時、その作成された問題は本当に正しい（条件を満たした）内容の問題なのか、チェックしなくていいのかと少し不安になりました。また、その方法でうまくいくのだとしたら、わざわざ私が教える必要はないのでは、という気持ちにもなりました。</p> <p>職場でも今回のセミナーの話をすると、大先輩から、私たちはAIをコントロールするために必要だという話になりました。</p> <p>今回は生成AIをどう活用するか考えるきっかけにもなりました。</p>

当初はAIとの付き合い方やこれからの学びとは何かなど問題意識をもって臨んだはずでした。しかし坂本先生が私たちに体験させてくださったGeminiの実践がすごすぎて、あんなこともこんなこともできる！と夢が膨らみ舞い上がってしまい、嶋田先生のお声がけで我に返りました。坂本先生や受講者のみなさまのお話を聞いて思ったのは、これから人間の二極化が進むだろうということ。AIを創造的に使いこなす聡明な人はますます進化し、ただ楽をしようとする人は退化していきだろうと。そして教育現場において本物を見極め正当な評価をすることが難しくなっているということを知り、若者には自分の能力を盛って見せるような虚しいことはせず京都大学の実践のように学習に役立つ使い方を選んでほしいと思いました。今回色々考えるよい機会をいただきました。しかし立ち止まって考えるには余裕が必要です。なにはともあれ坂本先生に教えていただいたプロンプトを応用し日々の業務を効率化して考え続ける余裕を作りたいと思います。素晴らしい講座を本当にありがとうございました。

坂本先生が、多くのトライアンドエラーを経て得た有効なプロンプトを共有いただき、ありがとうございました。先生の挑戦なさる姿勢と惜しげもなく共有してくださる心の広さに感銘いたしました。今回の講座を機会に積極的にGeminiを活用していきたいと思っています。また、言語学習者がAIを使用して学習を行うことを前提として、講師ができること、やらなければならないことを意識していきたいと思いました。新米の講師が一人で考えるのは限度がありますから、講座に参加したり本を読んだり、講師として成長を続けていきたいと改めて思いました。日本語講師としてのAIとの向き合い方を考える機会ともなりました。ありがとうございました。

坂本先生が作ってくださった練習の第一問目をやってみて、Geminiの持つ能力の高さに驚かされました。これまで私が時間をかけ、力を入れてきた作文の添削とほぼ同じことをGeminiが1分ほどでやってくれたのです。しかも3つのパターンを提示してくれました。その上、最終的な文は私が直したよりずっと自然で読みやすい文章になっていました。これを見たとき、Geminiがあれば私なんかもう用なしなのではないかと暫し落ち込みました。しかし、改めて二つの添削を見比べてみて、私は学習者の作文をできる限り生かしたいと考えて添削していることを思い出しました。

第2問目の「要約」ですが、「要約」を試した後、「易しい言葉への言い換え」に使ってみました。現在N3～N4レベルの学生ですが、授業でPPTを使って発表するという機会も多くなってきました。しかし、データをネットで探して、そのまま発表原稿に貼り付けてしまうことが多いです。それを自分の頭の中にかみ砕いて、易しく言い換えるように何度もアドバイスしていますが、教師である私自身も「言い換え」に頭を悩ませているのですから、彼らにとっては至難の業なのも当然です。それで試しにGeminiに「CEFRのB1レベルの学習者にもわかるように言い換えて」と頼んでみたら、いつものような早業で易しく言い換えてくれました。中には？と首をひねるような答えもありましたが、Geminiがヒントを与えてくれるので、言い換え作業がずっと楽に行えました。ただ、この方法をそのまま学生たちに伝授したら、楽をしたいという考えに引きずられてしまうのも無理からぬことだと思えました。「考える」ことを深めるためにPPTを作って発表するのに、機械任せにしては本末転倒です。

「考える」という作業が抜けてしまわないようにするにはどうしたらいいか。抽象的な言葉を易しく言い換えるのは難しく、やり方がわからないのだから、クラスで徹底的に言い換え練習をしてみたらどうだろうと考えました。グループで考えて→ペアで考えて→一人で考えて言い換えてみるという練習を経てやり方がわかれば、学生もいたずらにGeminiに頼ることはないのではないか。Geminiは便利な道具だが、使いこなすのは人間だと学生たちが理解したら、生成AIを濫用することはなくなるのではないかと考えました。

語彙や漢字の4択問題については、Geminiは素直な問題を作るので、まだまだ私が作ったちょっとトリッキーな問題のほうが使えるように思いました。そこで、読解の期末試験を作る時に、Geminiを使って4択問題を作ってみました。これは思った以上に使えました。おかげで学期末の作業が軽減されました。

ルーブリックでの作文評価は是非使ってみたいと思っています。これまでは作文評価は担任一人で行うことがほとんどでした。客観的に見ているつもりでも、つい鼻真目で評価してしまうこともありましたので、Geminiの評価も参考にできればありがたいです。

勉強会のあと、いろいろ試してみました。文法説明に間違いがあったり、こちらの要望とは違うことをやってしまったりする場面もありましたが、仕事時間の短縮に大いに協力してくれると感じました。また、練習問題を試していくうちに、Geminiとの会話が楽しくなってきて、機械と会話していることを忘れそうになりました。これなら、日本人と話したいけれどチャンスがないという学生にも大きな助けになるのではと思えました。レストランでアルバイトをしている学生のために、いろいろなパターンのプロンプトを用意してあげたら、お客様とのやりとりを自然な形で練習できるかもしれない・・・と、次々にやってみたいことが頭に浮かんできました。秋休みが終わり、10月になったら、今回考えたことを授業に生かしていきたいと思います。

実践から得られた貴重な情報を惜しみなく分け与えてくださった坂本先生、本当にありがとうございました。このような素晴らしい勉強会を企画してくださった嶋田先生、ありがとうございました。お二人に心から感謝申し上げます。

今回、この勉強会に参加したのは、生成AIを授業に活用できるようになりたいと思ったからです。とはいえ、自分は生成AIのことを何も知らない、どうやって使っているのか、何をしたら、どんなことができるのか、きっとそのヒントが学べると思い参加させていただきました。坂本先生が惜しげもなくそのノウハウを共有してくださり、問題作成のためのサンプルプロンプトまで実例まじえて演習させてくださったので、本当に勉強になりました。

実際に自分の授業にどう生かしていくかを考えた時、結果について常に検証が必要なこと（嘘を平気でつくというくだりは笑ってしまいました）、そして使う人の知識、能力、専門性が問われるということ、留意しなければと思いました。プロンプトの重要性も深く感じました。プロンプトが結果を左右すること、そしてそれは自分の指示力、質問力に通じること。

Geminiは、いえ、坂本先生は、私のガチガチ頭に風穴を開けてくださいました。ご紹介いただいたプロンプトを参考に、自分でも問題作成したり、文章を要約したりいろいろ試してみたいと思います。まずは相手（Gemini）を知るところから。

坂本先生、嶋田先生、今回このテーマを企画、ご講義いただきありがとうございました。

（提出が遅くなってしまい申し訳ありませんでした。）

Geminiを実際に使いながらご説明いただきとても分かりやすく、早速、漢字の語彙の説明をGeminiでしたところ、適切な答えが返ってきました。それよりも、問題まで作成されていて驚きました。

授業準備の時間が短縮されるであろうと思います。

示された内容の吟味も忘れず、今後、いろいろな場面で試してみて使っていくことができればと思っています。

実際の活用法について、詳しくご教示くださりありがとうございました。先生の暖かいお言葉を聞くことができ、大変光栄に思いました。残念なところは、内容に伴う時間配分でしょうか。少し中途半端に終了してしまった感は否めません。寺子屋以外にもまた、先生のご講演があれば、ぜひ拝聴したいです。

坂本先生、貴重な機会をいただきありがとうございました。坂本先生が、惜しみなくご経験を共有していただけたこと、なんとお優しいことかと感動いたしました。

私は、英語の論文を探したりするとき、CATGPTをさらにアプリを利用したりしています。要約や和訳などもしてくれるので、読むべき論文かどうか判断するためにとっても助かっています。しかし、生成AIは、なかなか自分の思った結果はでないものですね。試行錯誤してプロンプトを作成することも日常茶飯事です。

日本語教師として、日々成長する教師を目指すには、生成AIも日々どのように使用したらいいのかを工夫できることはとても重要だと感じました。

今回は、使い方にフォーカスした内容だったと思いますが、個人的には、AIを利用するということは、教育にどのような影響があるのか。それは、AIが普及してきたことで浮かび上がる影響なのか、それとも、実はそもそもの教育の課題なのか。日本語教育にかかわる人々が大きく問われているのではないかと感じています。

今回の機会の先に、それぞれの日本語教師が自分の教育を問い直せるといいなと感じました。

坂本先生、嶋田先生、貴重な機会をありがとうございました。

今回の講座では、坂本先生の数々の実践を懇切丁寧に解説していただきました。今まで生成AIのハルシネーションを怖がり、積極的に活用できずにいました。ですが、今回の講座を通して、生成AIの活用で「注意すべき点」と「活用すると助かる点」がよく理解できたことで、今後怖がることなく活用していこうと思えるようになりました。

講座の中で、授業準備やテスト問題、作文の添削など、教師が生成AIを使うとよい例を実践的に教えていただきました。また、学生に課題を出す際、生成AIを活用することを前提とした出題の例を共有していただきました。さらに、本質的な学びにつなげるために、生成AIをどのように教育に活用すればいいかという問いには、学習者や教師も一緒に考えていく姿勢についての言及もありました。どのお話も示唆に富むものばかりで、ますます生成AIの活用に興味が湧いてきました。

みなさんは、もう既にされていることかもしれませんが、最近、学習者と一緒に生成AIを使いながら、対話を通して教育の場で活用するのはどうだろうかと思っています。教師が一人で授業準備に使う、あるいは、学習者が家で生成AIを使って宿題をする、という別々の場での使い方ではなく、教師と学習者が同時に生成AIを補助的に使い、学習指導を行うというものです。

例えば、作文やスピーチ原稿を添削する際、学習者と一緒にPC画面の原稿を見ながらやり取りを通して直すことが多いのですが、最近では、生成AIもその場で使いながら、修正作業をしています。初級の学習者の場合、成人学習者は自分の思考を十分説明することが難しいことがあります。教師としても、できるだけ学習者の思いを学習者の使いたい表現で書いてもらいたいのですが、とっさに学習者の思いを表現する言葉が思いつかないときもあります。そんなとき、生成AIを使えば、学習者の使いたい言葉の例をレベル指定して、瞬時に複数示すことができます。それを見て学習者にどの言葉で表現したいかを選んでもらうといった使い方です。

また、あるとき、「学生時代、この音楽から勇気もらった。」と学習者が書いてくれましたが、学習者の国の音楽の場合、曲は聴けても、歌詞の意味がわからないことがあります。詞の翻訳も、著作権の関係でできない場合もあります。そんな時、「この歌は聞く人にどんなメッセージを伝えたのか」といったプロンプトを投げかけると、生成AIは歌のメッセージを複数要約してくれます。それを踏まえて、学習者の思いを学習者のレベルで言語化するサポートができました。もちろん、生成AIを使う過程で何度かハルシネーションも起こりました。でも、その場に学習者もいるので、学習者の反応を見ていれば、生成AIが何かやらかしたなと察知することができますし、プロンプトの修正は何度でもできるので、プロンプトを微調整しながら使うことができます。

生成AIは今の所、役に立つ点と注意すべき点があります。注意すべき点がある以上、教師も学習者もそこに留意しながら、そして、使う場を同じくし、同時的に使うことで生成AIの弱点をカバーできるのではないかと考えています。

講座を通して、生成AIへの使い方はもちろん、本質的な学びに繋がる活用の仕方、向き合い方についても深く考える機会になりました。ありがとうございました。

生成AIには漠然とした可能性を感じながらも、それをどう日々の実践に応用していくかという点はイメージできておりませんでした。今回の寺子屋ですぐに授業等に取り入れることができるヒントを多く得ることができました。得られたヒントをもとに、特に作文教育へのアイデアを練っていきたくて考えております。

ITには苦手意識がありましたが、AIを上手に使う方法を教えていただいて、とても勉強になりました。考えすぎて時間がかかる質なので、AIを活用して、もう少し時短して効率的に仕事をしたいと思います。

今回一番の収穫は、知性と優しさにあふれる坂本正先生にお会いできたことです。すばらしい機会をいただき、本当にありがとうございました。